

イタリア旅行紀行 その3

石川万佐子

イタリア旅行の甲ほどで、トスカーナへと向かいました。
トスカーナの伝統、夢く自然に触れることができ、思いで
深い土地となったため、今回はこの地での体験も、
綴らせてもらいます。トスカーナ地方は世界遺産の宝庫です。
よく知られているピサの斜塔やシエナ、700年の長い年月を
懸けて人々が畑に作っていたオルチャ渓谷等がそうです。
起伏の小さい傾斜のなだらかな丘陵地帯は、人間の
手で作り出したとは、思えないほど広大で美しい景観で



トスカーナの麦畑と放牧されている羊たち（羊のチーズで有名）

あり^{あつ}倒^{たお}されました。

アグリツリスモでは、私^{わたし}がイタリア旅行^{りょこう}中に飲^のんだ
なかで最も^{もっとも}気に入^きったアルネッロに出^で会^あいました。そこの
トスカナの伝^{でん}統^{とう}料理^{りょうり}はワイン^(ワイン)との相^あ性^{せい}も良^よくどても
美味^{おい}しかったです。ここで頂^{いただき}いたご馳^ち走^{そう}は日本^{にほん}に帰^{かえ}っ
てからも何^{なん}度^ども思^{おも}い出^だします。それで、「イタリアの美味^{おい}しい
ワイン」という題^{だい}で絵^えを
描^かきました。その絵^えは、
イタリアで刺^{げき}激^{げき}を受け^うけ
てから描^かいた絵^えで、これ
までよりも立^た体的^{てき}で興^き行^{ぎょう}
にもこだわ^かって描^かくこが
でき、満^{まん}足^{ぞく}いく作^{さく}品^{ひん}と
なっています。



アグリツリスモのレストラン

また、ピエンツァではキョストロに宿^{しゆく}泊^{ぱく}しました。修^{しゆ}道^{どう}院^{いん}
を改^{かい}築^{じく}して作^{つく}られた
ホテルで、庭^{てい}からオ
ルチャ^{おる}深^{ふか}谷^やを一^{いち}望^{ぼう}する
こと^{こと}ができました。
普^ふ通^{つう}のホテルとは、



ホテルの中庭

か^い違^いい^い独^{とく}特^{とく}な^な雰^{ふん}圍^い氣^きの^のあ^ある^る空^{くう}間^{かん}で^で神^{しん}秘^ひ的^{てき}な^なも^もの^のを^を
感^{かん}じ^じ取^とる^るこ^こと^とが^がで^でき^きま^まし^した^た。

ピエンツァの^{まち}街^がには^{さか}坂^がが^{おほ}多^くく、^{さんぽ}ゆ^っく^りと^{さんぽ}散^{ぱん}歩^ぶし^てい^いる^る
と、^わ革^が職^{しやく}人^{にん}の^いる^る店^たん^があ^あり、^{その}そ^の人^{びと}が^{つく}つ^くた^た革^{がわ}の^て手^て帳^{ちやう}を^かい^て
買^かっ^たら^ら私^{わたし}の^な名^な前^{まえ}を^か彫^ほっ^て

もら^うこ^とが^がで^でき^きま^まし^した^た。

私^{わたし}が^ハッ^ピー^ーと^いっ^たら、
やさ^いしい^め目^めを^した^たそ^の年^{とし}
お^おろ^ろい^いた^た職^{しやく}人^{にん}さん^は、

い^いい^いえ^えラ^ラッ^キー^ーで^すと
い^いわ^われ^れま^まし^した^た。

ト^トス^スカ^カー^ーの^い田^{でん}舎^{しゃ}は^ワイン^{いん}や^り料^{りょう}理^りの^お美^み味^みは、^そ外^{そと}で^た
食^たべ^はく^いた^た食^{しょく}事^じの^{たの}楽^{らく}し^さ、^さ丘^{かみ}陵^{りやう}地^ち帯^{たい}の^い嵐^{らん}景^{けい}、^ピエン^{えん}ツ^つァ^あの^あ
町^{まち}並^{なみ}の^{たの}笑^{わら}い^さを^いま^まで^も懐^{なつか}か^かしく^感感^だい^だし^しま^ます^す。



革職人はウイットに富んだ人でした



ピエンツァの街への入り口



イタリア人は外で食事をするのが好き